

北海道中体連柔道専門委員会 研修資料

講道館大阪国際センター
2017/02/18 10:00 ~ 14:30



講師 国際柔道連盟 A 級審判員 天野安喜子 先生

平成28年度 Aライセンス審判員 研修会



1. 国際柔道連盟試合審判規定(2017-2020)改正の要点について…………… P. 1
2. 国際柔道連盟試合審判規定の団体戦への全柔道導入について…………… P.10
3. 国内における「少年大会特別規定」…………… P.11
4. 事例検証資料…………… P.13

2017. 2. 18

リオ五輪後の IJF ルール改正について、上記研修会資料と天野安喜子先生のお話をまとめ、併記します。

流動的な部分も残されており、各所よりご意見ご質問等を収集しながら煮詰めたところです。

なお、資料部分は黒、メモは赤、個人的な云々は青、追加文言は緑で表現します。

今後、文言の訂正等は必ず発生しますので、再配布等は一報頂けると幸いです。

(いずれも下記アドレスへ)

日本中体連柔道競技部北海道ブロック長
zsr0831@gmail.com あるいはフェイスブック

審判規定改正の目的

過去4年間で柔道が、とても前向きな進化を遂げたのは明らかである。リオオリンピックにおける成功は、これを具体的に証明している。ここ数年で選手の技術的な能力は大きく向上した。例えば、大会におけるテクニカルスコアの数は急激に増えた。2015年8月にカザフスタンで開催されたアスタナ世界選手権においては、いくつかの階級において80%以上に上った。

今回の分析は、IJF理事、増員された柔道に関する専門家や柔道ムーブメントに関わるメディア代表者の監督下で行われた。今回の分析を受けて公表された、いくつかの変更や改正された規定が、今後、柔道に、より明快さとダイナミックな動きをもたらすことになると考えている。新しい規定は、各国連盟や20名から構成されるIJFコーディネーション委員会ディレクターからの提案を基に精査され、その後IJF専門家ならびにテクニカル部門のIJF理事により分析された。広く(情報を)共有し、民主的な同意を経て、今回これらの案が採用された。これらは、柔道の根本的な価値、道徳を踏まえて作成されており、我々の柔道が生きたスポーツとして現代の流れ

に適合し、より多くの観衆を魅了するであろうことを保証するもので採用される審判規定については、1月にアゼルバイジャンのパクーで開催された審判・コーチングセミナーで発表された。柔道家、コーチ、ファン、メディアは、IJF YouTubeチャンネル (www.youtube.com/judo) において、1月6日、7日よりパクーのセミナーを見ることができる。

まず、審判員、コーチ、各連盟ならびに大陸の代表者に対し、新しい規定の各ポイントについて講義と実技講習を用いて詳細に説明される。それから試験期間が開始される。試験期間中、新しい規定は必要があれば改正される。この過程により、我々柔道コミュニティは、次のオリンピック出場資格獲得サイクルを、より最適な審判規定をもって開始することが出来る。ブダペスト世界選手権の終了後に、次回オリンピック出場資格獲得期間に適用される審判規定を決定する会議が開催される。

以下が新しく見直された規定の要点である。

<改正の目的と経緯>

IJFセミナーの方向性(素人が見て面白いことが人気の土台)

- ①一般人(衆目)にもわかるルール→反則の簡素化
- ②技で決着→競技としての魅力の増大

オリンピックに出場する選手ともなればネガティブはいないだろう。



であれば技で決着させてやろう
指導は少し様子を見よう



リオの流れ(指導を遅く)を組む
エキサイティングな試合が多く好評であった



8月のブダペストまでは試行期間なので見直しがあるかもしれない



Web ページに注目のこと

国際柔道連盟試合審判規定 (2017-2020) 改正の要点

国際柔道連盟発信
2017/2/3

試合時間

- 男女共に試合時間を4分とする。これは、IOCが男女の公平性を求めていること、ならびにオリンピックにおける男女混成団体戦で試合時間を統一するためである。

スコア

- スコアは、「一本」と「技あり」のみとする。
- 「技あり」には、今までの「有効」も含まれる。
- 「技あり」2つでも、「一本」と同等とはしない（“合わせ技一本”の廃止）。

抑え込み時間

- 10秒で「技あり」、20秒で「一本」とする。

試合の決着

- 規定試合時間（4分）において、試合は「技あり」、もしくは「一本」のテクニカルスコアでのみ決着がつくこととする。
- （直接もしくは累計による）「反則負け」を除き、「指導」（1回目、2回目）の連いだけでは勝者を決定しない。
- 「指導」は、相手のスコアとはならない。

ゴールデンスコア

- 規定の試合時間が終了した時点で、試合両者にスコアがない場合、もしくはスコアが同等である場合、「指導」の有無にかかわらず、その試合はゴールデンスコアに突入する。
- ゴールデンスコアに入る前の規定試合時間内に与えられたスコア、ならびに罰則は、引き続きスコアボードに反映される。
- スコアが与えられた時点で、ゴールデンスコアは直ちに終了する。
- ゴールデンスコア中に「指導」が与えられた場合、与えられた選手が相手よりも多くの「指導」を受けたことになる場合、その試合は終了する。
（別紙資料 ゴールデンスコア参照）

・男女試合時間4分→男女混合の団体戦

★有効は技有りに引き継がれる。

・一本はそのまま

・押さえ込み→20sec 一本… 10sec 技有り→合わせ技一本はないので計時係は注意

一般の人がわかりやすいように、
技としての効果を認めて裁く意識がポイント

★決着→技による→ノースコアはGS（ここがミソ）

・GS→勝敗決着するときは合議するが、でなければ主審の判断でよい。

・（ちなみに）スーパー一本→海外では有効に訂正されることが多い。

国際柔道連盟試合審判規定 (2017-2020)

改正の要点

国際柔道連盟発信
2017/2/3

罰則

- 指導4ではなく、指導3で「反則負け」となる。
- 3回目の「指導」が与えられた時点で「反則負け」となる。
- 審判の作法や審判への理解を明確にするため、過去に柔道衣の握り方で罰則が与えられていたピストルグリップ、ポケットグリップなどの組み手について、今後は罰則を与えない

組み方

- 標準的でない組み方の場合、直ちに攻撃しなければ「指導」が与えられる。
- ベアハグ（投げるために相手に抱きつく行為）を行う場合は、攻撃する選手が少なくとも片方の組み手を持っていなければならない。組手のない状態において両手で相手に抱き着く行為には「指導」が与えられる。柔道衣に触れただけでは組んでいるとはみなさない。しっかり柔道衣を握っていること。
- 相手の袖の中に指を入れる行為は、今まで通り罰則を与える。
- 攻撃をしようとしないう、防御姿勢など柔道精神に反する消極的な行為に対しては厳しく「指導」が与えられる。
- 投技を準備するのに時間がかかることもあるため、組んでから攻撃を掛けるまでの時間を45秒に延長し、それまでに技がない場合は「指導」を与える。
- 脚を掴む行為や下穿きを握る行為については、1回目は「指導」が与えられ、2回目は「反則負け」が与えられる。

・反則→（衆目からすると）多すぎて一般受けしない（解りづらい）から減らした。

★「攻撃準備動作」か否かが反則かノーかの判断基準→ピストルもポケットも、ずっと防御あるいはネガティブとみなせば指導を与える。

・帯下攻撃→寝姿勢か否かの判断を見極める。

試合巧者がたまたま足取りで負けるのが忍びない。

一度目指導－2度目反則負けなので、表示を工夫する必要がある。

ベアハグ＋足取り＝ダブルパンチもあり得る。

・「45秒」→余り意識せず、今までよりは攻撃動作があれば少し長くと理解する。

・袖口指入れはただちに指導とし、ピストルやポケットと区別する（安全第一）

・勝っている方が残り5秒で故意に場外→反則負け（柔道精神に反する）

・体格差が非常に大きい（無差別、小学生など）とき、たまたま足取りのようになるケース。
→公正公平にペナルティを与えるべき。

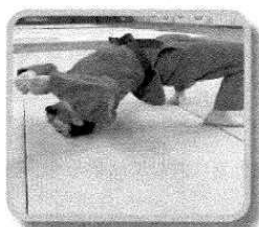


国際柔道連盟試合審判規定 (2017-2020)
改正の要点

国際柔道連盟発信
2017/2/3

安全性

- IJF では、可能な限り柔道による外傷事例を抑えるため、安全性に関する規定を精査してきた。受が、背中から着地するのを避けるために行う試みについて、頭や首、脊椎を危険にさらす行為があれば、「反則負け」が与えられる。
- 選手が「一本」を避けるために故意にブリッジの体勢になった場合、主審は今までのように「一本」を宣告するのではなく、ブリッジの体勢で着地した選手に対して「反則負け」を与える。



ただし、これにより敗退した選手は、その後に試合（敗者復活戦や3位決定戦）があれば出場することができる。

- 柔道精神に反するような行為は直ちに罰せられる。
- 若い柔道家に悪い例を見せないように、両肘が着地した場合には技の効力を認め「技あり」を与えることができる。片肘で着地した場合には、技の効力を認めず、スコアとしての評価をおこなわない。



★IJFの方向性は「安全重視」→「危険！」と思ったら反則を！

逃れられない危険な技は反則

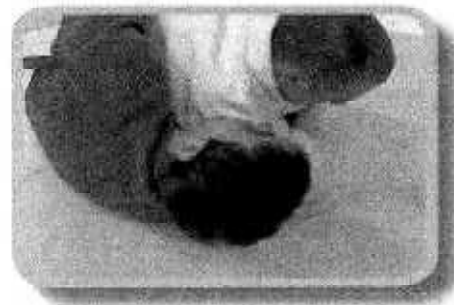
- ・ブリッジ→反則負け…ジェスチャーは?? 頭をつけて回転してもダメ
- ・脇固め→体を預けたら反則負け
- ・袖釣り込み腰→腕が決まる、後頭部を強打する…落ち方によってはペナルティ?
- ・小学生の試合→片膝背負いで首をひねるような場面が危険→福井県では反則として申し合わせている。

国際柔道連盟試合審判規定（2017-2020）
改正の要点

国際柔道連盟発信
2017/2/3

投技と返し技

- 取の攻撃に対して受が返し技を施した場合、★自身の体が先に着地した選手が投げられたこととする。
- スコアを与えるに値する場合、適切なスコアが与えられる。
- 両選手が同時に着地した場合は、双方にスコアを与えない。
- 着地した後に選手が施した技★（返し技）については、スコアの対象とはしない。
- 着地後のいかなる行為も寝技とみなす。



- ・ 技を掛けきる ことができるようにするのが狙い。
- ・ 倒されているにも関わらず技を継続するということはなくなる。

国際柔道連盟試合審判規定 (2017-2020)
改正の要点

国際柔道連盟発信
2017/2/3



柔道衣

- より効率的に、より良い組み手で組むことができるように柔道衣の上衣はきつく縛った状態の帯の中に収まっていなければならない。さらに、選手は、主審が「待て」を宣告してから「はじめ」を宣告するまでの間に、上衣と帯を素早く正すこと。
- 仮に選手が時間を稼ぐ目的で柔道衣もしくは帯を乱した場合、「指導」を与える。

・国際大会会場において日本選手が誉められている。

→ (自然に自ずと) 柔道衣を直しながら開始線に戻る。

Q	A
①（記憶違いでなければ）前回改正のとき川口先生が「審判は試合開始 30 秒で優劣を見極め、1枚目のカードを切る（指導を与える）べきだ」とおっしゃったが、このあたりの表現はどうなるか。	
② IJF ルールの勉強をしたく、なにか良い動画サイトなどないか。	

＜更新履歴＞

- ① 2017/02/22 取り急ぎメモをまとめ、アップします。
- ② 2017/02/23 Q&A 枠を設けました。